

平成21年 第4回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

3番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

3番、田島憲道です。平成21年12月定例会一般質問の最終日でございます。今年もまた去年に引き続き大トリを務めさせていただきます。皆様におかれましては大変お疲れのようですが、しばらくの間おつきあいのほどよろしく願いいたします。

私は、観光振興の視点から、あしや花火大会について通告に従いまして質問に入らせていただきます。

真夏の夜空をキャンパスに、大音響とともに次々と色とりどりの大輪の花を咲かせ夜空を美しく彩る花火、これはまさしく芸術であります。大正時代に始まったとされるあしや花火大会も由緒ある夏の風物詩と言われ、芦屋町の一大観光資源として大いに貢献してきました。一時は途絶えたこともありましたが、町民の花火大会に対する強い思いが波多野町長を動かし、おとし再開されました。芦屋基地航空祭と並び芦屋町を代表する一大イベントとして位置づけられ、芦屋町最大の集客力を誇るイベントとなっています。今日まで大きな事故もなく輝かしい伝統を誇っておる、あしや花火大会。関係者皆さんに対して敬意を表する次第であります。

さて、今年の花火大会は、去る7月25日に開催される予定でありましたが、前日の豪雨のため中止となり、振替日の翌日も同じく中止、今年はやらないと実行委員会で決定がなされました。このことは、関係者皆さんの相当な苦勞の末の苦渋の決断があったと理解しておりますが、その経緯と今年度の花火大会の収支をお尋ねします。

2項目目は、来年度の花火大会の取り組みについてお尋ねします。

以上です。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

それでは、花火大会についてという案件につきまして、まず要旨1点目の今年度の花火大会が中止された経緯とその収支ということでございます。

まず、今年度の花火大会が中止されました経緯でございますが、花火大会前日の7月の24日夕刻から、北部九州に記録的な豪雨が集中いたしております。その関係で遠賀川の水位が上昇したため、25日午前0時には遠賀川河口堰を全壊し、遠賀川の水が放流されました。

花火大会当日の25日は、遠賀川の水位流量の問題もあったため、午前9時に実行委員会の

方々に集まっていただき協議を行いました。協議内容、結果につきましては、上流の水位が下がらなく、河口堰が全壊で流れが速い、大雨洪水警報がいつ解除されるか推測できない、警察関係者も災害対策で支援が厳しいなどの理由により25日の中止を決定し、26日に順延ということでした。

26日は午前8時に、同じく実行委員会正副会長で集まりまして、天気予報を中心に協議いたしました。25日に26日の順延を決めたときには、天気予報の予想は「26日は回復するだろう」という予想でしたが、それとは変わりまして当日の天気予報では「夕刻から開催時間にかけて雨の予想」ということが出ております。そのため、やむなく26日も中止しております。

また、それ以後の順延についても協議いたしましたけども、花火の部分がもう一回雨とかに濡れば、一週間程度は可能ですけども、それ以上の花火の持ち越しは難しいということで、警察等の協議も必要の状況の中で、今年度の花火大会は中止ということで決定いたしております。

次に、今年度の花火大会の収支見込みということでお答えいたします。収入合計では2,238万6,444円。内訳は町補助金が1,400万円、協賛金が497万8,000円、自治区からの寄附金が105万1,919円、前年度繰越金が232万5,029円となっております。

なお、町補助金につきましては、当初1,800万の受け入れでございましたけど、400万を返還し、最終的には1,400万となっております。

歳出合計では1,555万7,377円。歳出の主なものは、花火の補償や台船設置委託費、電気設備委託費などを中止に伴う経費となっております。収入から支出を差し引きました残額682万9,067円は、協賛金や自治区寄附金ということの中で、次年度の繰越額となっております。

以上でございます。——あ、すいません。

要旨2点目の花火大会の取り組みということでございます。来年度の花火大会につきましては、まだ警察等との協議は整っておりませんが、今のところ実行委員会の中では来年の7月の31日の土曜日を予定し、順延の場合には8月1日ということで大体決めております。また財源につきましては、今年度繰り越しいたしました協賛金及び自治区の寄附金のほか、町の補助金、それからまた新規に協賛金等を募りまして開催することといたしております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

まずは、第1点について、再質問やります。

課長の答弁を聞きまして、この花火大会の運営の難しさ、大変さが重々伝わっております。しかし、町民から「今年は、なして中止ね。何で来年までないとう」という意見や諸経費などのものもろもろについてよく聞かれるんですね。私はその1,400万円という交付金に加え、町民の夢と希望の結集である皆さんからいただいた協賛金600万ですか、これだけの町内最大である一大イベントを中止してしまった。また開催できたとしても、一夜限りのたった1時間で終わるイベントにこれだけのお金を使う、もったいない話ではないかと考えてるわけではありますが。

断っておきますが、先ほど特定健診の罰則で1,800万ですかね、言ってましたが、補助金を減額しなさいなんて言うておりませんので、そここのところはくれぐれも誤解しないようにご理解よろしく願いいたします。

現在、花火大会と名のついているものは、全国各地において大小さまざまありまして1,000カ所以上、古い資料では7,000カ所あると言われております。今年は思った以上に協賛金が集まらなくて、中止になった自治体があったと報道が夏ごろよくあってましたが、しかし町民の総意は、この花火大会が芦屋町にもたらす経済効果や活力、希望というのが非常に大きいものであると、町民はよく理解しております。

花火ですが、当日中止で予備日もだめであった、来年持ち越しと決まったんですが、今年やめたことによる経済的な損失は大変大きいと思います。このことについて、いかがですか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

確かに言われます経済的な損失、当然花火大会を開催すれば、やはり地域の商工業者などがおるわけでございます。それが今回はできなかったということでございます。それとあわせまして、補助金につきましては、町のお金も1,400万使ってますし、協賛金、寄附金等につきましては来年度持ち越しということになっておりますが、当然町の1,400万は無駄になったということでございます。

ただ、芦屋の場合の花火大会のやり方といいますか、当然迫力的なものも含まれまして、遠賀川の河口でやっております。そういうような関係上、当然台船の問題、それから警備の問題、やはりほかの市町村でやるよりも、それ以上のものがかかっております。もし、そういうようなものがかからないで別の場所ということになりますと、今度は逆に警察の協議が大変難しくなると思っておりますし、あのエリアが一番いいのではないかなという判断もしております。

その中で、できるだけ経費を削減した形でやりたいと思っておりますけども、そこは警察の協議を十分詰めていく必要があるかと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

例えばですね、町内の仕出し屋さんなどの飲食では、それを見込んで仕入れているわけなんですよ。意地でも今年やるのと来年までお預けだと波及効果が全然違ってくると思うんですね。

中間市で去る8月15日ですか、盆踊り大会を兼ねた3,000発花火大会開催するところ、こちらも雨で中止で、翌日の予備日もだめ。しかし、先日秋祭りのときに前夜祭を設け花火を打ち上げたという、これ執念ですよ。

また、私は関門海峡の花火大会に、ここは1万3,000発で下関と門司と両岸から打ち上げるんですが、そちらの様子を見に行っただけですね。始まる直前までどしゃぶりの雨でした。しかし、栈敷席からだれも立ち上がらない、帰らないんですよ。それで思いが伝わったんでしょう。始まる寸前にきれいに雨が上がりまして、ここは台風以外は中止しない、雨でも打ち上げるといふすごい気迫を感じました。中止してもかかる経費があります、それはもう払わなきゃいけない。だからやるんですね。

それで、もう一度お聞きします。キャンセルしたための諸経費ですか、幾らかかりましたかお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

これらの歳出にありますように1,555万7,377円が歳出の合計でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

それはキャンセルしてもかかる経費ということですね。

○地域づくり課長 内海 猛年君

はい、そうでございます。パンフレット、チラシ関係も全部つくっておりますし、警備会社につきましては一部中止が可能であります。

それと、台船につきましても、25日の当日がちょうど満潮、干潮の関係で、一般的であれば当日の早朝に台船を遠賀川のほうに係留するわけなんですけども、ちょうど25日の潮の関係で、それが無理だということ——ちょうど満潮に当たっておりましたが、午前中といいますか、8時ごろは。そういうような関係で、前日の24日に台船を搬入いたしております。

それと台船を搬入する折に、もう花火も全部積み込んで搬入いたします。そういうようなこと

で、もう既に準備が万全だと。それで25日は夕方から若干曇り空になりました。我々も25日できるんじゃないかという思いの中で、ずっといろいろ協議を重ねました。そして警察のほうにも問い合わせましたら、当日先ほど申し上げましたように、水流——水の流れが非常に速くて、台船も前日の雨で、おもりを4カ所つけているんですが、その台船が20メートルほどずれております。それと、台船に乗るための係留の花火師を台船で運ぶんですけども、その船が上流に行かないと——流れで。

それと、もう1点は、警察との協議の中で、もし仮にお客さんが川に転落した場合の救助方法がまず不可能だろうという、もろもろのことを考えまして、天気の方は若干回復はしたんですけども、現場の状況が非常に困難だということで中止をいたしております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

ここにですね、宇都宮市の花火大会の2008年の収支報告があります。予算規模がほぼ一緒ですね、2,400万です。花火は1万5,000発。ここは県の中心、県庁所在地ですから、集客数も規模も違うんですが、集めた協賛金がすごいんですよ、これ。142社、個人139名で、約2,300万。宇都宮市からの補助金はわずか200万なんですね。

芦屋町でもこれぐらい協賛金を集めたら、公金の支出を抑えることができますが、現在の大不況の中では、この想像を遥かに超える景気後退の中では、協賛金を集めて回るということは今後ますます困難なことになってくると思います。しかし、今の予算規模を維持することを前提としてお話ししておるんですが、花火制作費以外で押さえられるところを見直していけばいいんじゃないかと思っております。そこで、見物客の安全を確保するための警備体制、それについてちょっとお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

花火の経費、21年度は中止いたしておりますので、20年度のちょっと実績で報告させていただきます。花火の経費、総額で約2,570万かかっております。その中で花火の打ち上げが800万、それから警備が406名で544万、台船が509万2,000円、この3点で大きな金額を占めております。先ほど言われますように、その警備体制というのが大変お金かかった分でございます。

もう議員もご存じのように、明石の花火事故、これ以来警察の許可がなかなか難しうございま

す。従前は、再開する前は導流堤、要するに芦屋側の導流堤に警備員等は配置いたしておりませんでした。若干ポイントには置いておりましたが、何メートル感覚に置きなさいとかいう指示もございませんでした。ただ、19年度に開始したときに約15メートル間隔で置きなさいという指示が出ております。

それで、やはり先ほど申し上げました、どこを削減するかと言いますと人件費が一番高いわけですから、警備のほうを削減しようということで、20年度は若干それを減額しております。

また、21年度につきましても、30メートル間隔でいだろうということで、幅広く警備の方が見れるような体制の中で区分分け、要するに通路と警備をする位置を区分分けして、巡回できるような形で削減に努めているところでございます。なかなかほかのところと言いますと、難しいような状況でございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

あの痛ましい明石の惨事を二度と繰り返すなということで、その後の警備体制、見物客の安全確保などを警察当局が指導が厳しくなった、そういったことでしょうか、一番大きく支出しているのは、その警備費と台船の敷設料だと思うんですよ。とにかくその台船に振り回されているんですね。台船を使わずに花火大会をやる、この方策を考えるべきだと思うんです。

そこは場所を変えるとか、例えば花火大会を海浜公園に持ってくるなどすれば、今までのような綿密な警備体制や——競艇場の駐車場は、ここは5,000台とめられるんですかね。海浜公園の駐車場は1,000台と聞いておりますが、十分な駐車場を確保することもできます。台船を呼び寄せる諸経費や警備費を抑えることができるのではないのでしょうか。いかがでしょうか。これについてお願いします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

まず、台船の問題でございます。今現在芦屋橋は仮橋で通行しております。仮橋の関係で橋脚の幅が非常に狭くなっております。そういうような中で、限られた台船、大きさといいますか、それを搬入しております。その台船というのが、この近辺にございません。どういうことかと言いますと、こまいために停泊が難しいということで、いろいろな装備をつける必要があります。その関係上、2台の台船で約500万かかっております。これが22年の10月には芦屋橋は新芦屋橋として開通いたします。そうすれば、23年の花火大会は今以上の台船、大きな台船を係

留することができます。そうすれば、約200万弱は削減できると思っております。

それと、もう1点は、先ほど言われました海浜公園での開催ということになりますと、この海浜公園から抜ける道、要するに利用客が、観客がどう道順として抜けるか、1本しか道がなくなってしまう。現在は芦屋橋を起点に山鹿方面、若松方面、芦屋もいろんな道を分散ができます。ただ海浜公園であれば、ちょっと道の分散が難しいということです。交通渋滞等の関係も出てくるではなかろうかということで、これは警察との協議はいたしておりませんが、そういうような問題もあるんじゃないかなという思いはいたしておりますので、今後ちょっとそれも踏まえまして、実行委員会などでも再度検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

海浜公園ですね。あそこは今まで砂浜の美術展で花火を上げましたよね。また、その奥の整備されている芝生公園ですね。あそこではだめなんですか。広大な芝生公園や砂浜を利用して、敷席、これをつくって、どこもブルーシートを敷いてやっているんですね。敷席料金、敷席でお金をいただく、これどこもやっています。あそこはどれだけの人が入れるんでしょうか。芦屋基地に体育館があって、そこは1,000人が座れると聞いています。それを考えると、あの芝生の公園がどれだけ座れるか、想像がつかないんですけど、花火の製作費ぐらいは捻出できると思います。これも、ちょっと聞いてみます。いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

海浜公園、または芝生広場等で花火を上げたらどうだろうかというご質問でございますが、まだそこまでの検証はいたしておりません。だから、実際にどれだけの経費がかかるのか。今後ちょっと調査する必要があるかと思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

花火大会の開催に当たっては、警察当局はもとより消防署や消防団の方々や協賛をいただいたたくさんの企業や自治区の方に、大勢の町民の皆さんの温かいご支援により支えられています。しかし今チェンジのときです。今こそ、次の展開を模索する必要があるのではないのでしょうか。

この花火が芦屋町にもたらす経済効果は非常に大きいと、だれしも疑わないと信じております。芦屋町の目玉というべきイベントです。芦屋という名前を最大にアピールする絶好の機会でもあります。そのため花火大会に来る見物客が、前日や当日に宿泊していただき、中心商店街などへ訪ねていただけるような——訪れていただけるような方策を各施設と連携を図りながら進めていかなければなりません。しかし、花火大会の運営状況を考えますと、見物客の減少状況、現在の会場ですか、または予算面でも限界が来ているのではないだろうかと思っております。

次に、来年の取り組みとして、予想していたとおりでありましたが、まずは例年7月ですね。各所で夏祭りや花火大会が催されています。去年は戸畑祇園と重なってました。そのため、にぎわいを演出する夜店もおととしより半分以下だったと思うんですよ。また花火も1時間に短縮されましたね。慌ただしさの中で、あっという間に終わったような状況でありました。

おととしは、実に感動的であったんですよ。もう涙がこみ上げてきて、泣きじゃくって夜空を見上げた花火とは、大きくかけ離れた去年の花火でした。これだけの予算をもってやるんですから、一夜限りのたった1時間のイベントにこれだけのお金を費やす。なぜ、よそといろいろ重なっている7月の末なんでしょうか。おととし同様の8月末ではだめなんでしょうか。

8月末は全国でもイベント枯れの時期と言われています。たしか大変な集客であったようなんですよ。毎年、砂浜の美術展も、こちら8月の末にやりました。去年との集客人数の比較、去年とおととしですか、集客人数の比較、またピストン輸送したバスですね、動員数わかりますか。あわせてお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 内海 猛年君

まず、去年とおととしの集客数ですが、去年が8万人、おととしが約7万人ぐらいでございます。だから、ちょっと戸畑祇園との重複といたしますか、そういうような関係で若干減っております。

それと、バスの利用につきましては、これは北九州市営バスが受け持っております、こちらのほうには報告上がっておりません。そして、不足した運賃の分のみ今こちらの実行委員会のほうが金をはらっているような状況ですので、利用者数については把握いたしておらない状況でございます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

おとしと去年とでは、去年のほうが多かったということですかね。いやあ、私が夜市の会場で、おとし、去年と携わってたんですけど、おとしの方が歴然と見物客が多かったような気がしているんですが、はい。

例えばですね、今年の芦屋基地航空祭、これ本当すごかったんですね。E T C効果なんですか。5万人を超えていたということです。通常の倍以上でありました。基地内に売店を出された町内の業者は興奮して話してました。「よう、売れたあ。砂浜の美術展思い出した」と。相当な経済効果なんですよ。どれだけ売れたのか、飲食店が40店舗出てまして、僕の友達がコンビニなんですけど弁当を出してたんですね。600円ぐらいの弁当が3,000個があつという間に完売したというんですね。

しかし、あれだけの人が来てたんですけど、ブルーインパルスが2時半ごろ終わると、みんな帰り始めるんですよ。あのときほんとすごい渋滞だったんですね。これを町内に引きとめて、引き続き町内を散策してもらって、花火大会、花火を見せる、この日に花火大会を持ってくるのはいかがでしょうか。

この時期、夏の花火と違って、夜8時から打ち上げなくても6時半ごろから上げられるようなんですよ。この時期に全国でも有名な八代の全国花火競技大会、これは6時半打ち上げ開始なんです。実はこちら私、見に行ってきたんですよ。参考までにパンフレット、後で町長のところにお届けいたしますので。ぜひ見ていただきたいと思っております。

秋、いや冬の夜空の花火はですね、夏の花火よりか澄んでいるんですよ。実際、僕、見に行きたんですよ。本当きれいでありました。花火が終わっても、夜8時ごろなんですね。これは十分まだ遊びに行ける時間帯です。町内には隠れた名店たくさんあります。これ多分、恐らくこれやると、ごった返すんじゃないかと思っておりますよ。

また、全国的に花火大会は、交通の渋滞緩和策として早い時間に会場に来てもらうんです。何をやっているかと、ステージイベントを用意してます。そこで若者の音楽ライブとか、地元の、ここでは吹奏楽とか、和太鼓などの郷土芸能を披露して、ぎりぎりまで、花火が始まるぎりぎりまで会場を盛り上げ、今の芦屋町の花火ですね、マンネリ化した打ち上げ花火じゃなくて、感動的な音楽に合わせて打ち上げるミュージック花火など、すばらしい演出を全国的にやっているんですよ。

以上、いささか暴論でありましたが、どこでもやっている夏の時期ではなくて、よその地域のイベントとバッティングしない時期に開催する。また町内の異種交流を図って連携して、それらの祭事と同時に開催することによって集客を図る。さっき言いましたけど、また栈敷販売などによって収入も確保するなど、皆さんが知恵を出し合って、力を合わせて、そして町長の強いリー

ダーシップで立ち向かえば必ず成功するのではないかと確信しています。

来年10月ですね、芦屋橋も完成するというので、これを記念行事として秋空、もしくは冬空に花火を打ち上げる。これ、いかがでしょうか。これは……

○議長 横尾 武志君

町長。

○議員 3番 田島 憲道君

町長にもお願いします。

○町長 波多野茂丸君

いろいろ、たくさんご提案をしていただいて、そして課長のほうからご説明がありました。非常に中身の濃いご提案だと思っております。

まず、お聞きしておって思うには、芦屋の浜でする関係は、実行委員会でもいつも上がってます。そうすると、課長も言いましたように、警察も今物すごく厳しいわけです。芦屋の浜でやったらどうかという形でシミュレーションしたら、とにかく港のほうからすべて危険だから、あの地域まで警備をなさないとか、それが一つ。

それと、委員会の中であったのが、あの河口ですることが芦屋の歴史であると。なぜ芦屋の花火大会が結構名が知れたかと言うと、まあ歴史もあるでしょう。何とんでも光もそうなんですが、城山との間の音ですか——音響、音が非常に大きなものがあるということの音の響き。こういうような形の中で、これは毎年、今田島議員が言われた話が出てくるわけです。

それから、期日の問題。8月の末でいいではないかと。これはさっきの話と一緒に、いや、これは歴史的に芦屋は海の町であるということから、学校関係の夏休みが始まる最初の土曜日ということで、じゃあ今から芦屋のシーズンが始まりますよという、これは合図ではないかという議論も一方ではあるわけでありまして。

それから、花火大会だけ、あの夜の数時間もつたいない、金額的にもその話も出てまいります。

航空祭との件なんです、じゃあ航空祭を花火に合わせてもらえるかという、それは無理な話でありまして、じゃあこちらが航空祭に合わせる。航空祭はやっぱりブルーインパルスの日程がありますんで、その辺の問題もあります。

なかなか「チェンジ」という言葉を使われましたが、逆に「不易流行」ということわざもあるわけでありまして。歴史、伝統を守っていかなければならないところ、それから変えるべきところは変えるべきところというところで——田島議員、観光協会の理事ですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）ぜひ、行政は、あくまでも支援する立場でございます。いろんな行政上の手続、防衛省、警察等々の支援する立場であります。

いつも商工会には私、厳しくいつもお話をさせていただいているんですが、余りにも行政頼りす

ぎておるのではないかと。みずからの企画でみずから立ち上がって、いろんなお手伝いは十分させてもらいますということをいつも申し上げておるんですが、観光協会も行動ある観光協会として、私は生まれ変わっていただきたいなと思うわけであります。そういう企画、立案、どんどん出していただきましたならば、行政が幾らでもお手伝いできる場面があろうかと思えます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

ありがとうございました。暗い事件が横行している中、多くの町民がこの花火大会に期待しています。今後ますます盛大なものとして、より大きな経済効果をもたらし、地域の活性化に結びつけていくためにも、これはもう本当絶対に事故が起きるようなことがあってはなりません。

芦屋町の花火大会も、今後も大きなイベントとして、近隣から注目される観光イベントとして育ててほしいと願うものであります。

来年の芦屋の花火大会の成功を祈念いたしまして、今年最後の一般質問を終わらせていただきます。

○議長 横尾 武志君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。